

ヴァルナブルな
人たち



偶然家履巻、奇跡家着巻

木村佳奈

約10日間ほどの妊娠と流産、飼っているメスチャボが卵を産んだ日のこと。去年の夏ごろにあったことを書いてみる。



〔妊娠と流産〕

その間のとてつもない身体と思考の変化に怯えていた。

「嬉しさ」はあっただろうか。もはやわからない。わたしの中では、恐怖が優っていたように思う。「わたし」というものが「母性」に侵食され、否定されるような感覚。胸が張り、乳首の先端がジンジン痛む。だんだん知らない身体になっていく。この戸惑いも束の間なのだろうか。お腹の中の新たな命がわたしを

占めていき、わたしは地球上の生物の一つとして「母」になれるのだろうか。。。きつと、きつと。。。

そんなことを考えていたら、胸の張りは消えて、身体つきは知った風に戻っていた。

「心臓が動いていませんね」エコーでわたしの子宮内を見た産婦人科医はそう言った。「あ、やってしまった」という気持ちと安堵があった。婦人科医は言った「これは誰もが経験することです。自分を責めないでください」と。「よくあることなんです」と。「しばらくしたら、出血とともに塊が出てきます。そしたらまた来てください」と。

わたしはその後のプロセスを一つ一つ大事に感じていった。それはもう特別だった。

後日、パンツに赤褐色の血が少し出てきた。「あ、出てきたんだ」と。

その日は出かける予定だったのでナプキンをつけて、車の助手席に乗った。すぐ、下腹部が痛くなった。いつもの生理痛よりもっと痛い。「痛い痛い」と顔を歪めていても、どうしてか感謝しかなかった。海辺に車を停めて、紅く海に沈む夕陽を見ながらその痛みを感じていた。流産だったとしても、出産と(きつと)同じように産み落としているんだと全身で感じていた。

「流産でも子宮にとつては妊娠と同じ動きです。ここから1ヶ月半後くらいにまた生理が始まります。」「その間は子宮と体を十分に休ませてください。これで診察は一旦終わりです。」と産婦人科医は言った。確かに、しばらく下腹部の痛みはじんわりと続いた。そして、思考がだんだんとわたしに戻ってくる感覚があった。知っているものの方角をしている自分、に、帰ってきた感じがした。

わたしは思い出した。妊娠検査薬を使った日、妊娠にとても嬉しい気持ちになって、パートナーや、その日たまたま出会ったbirth careの女性に報告したことを。嬉しい気持ちから始まったんだ。それも忘れていた。

全てがいつも通りになった頃、そのbirth careの女性にたまたま再会した。どの命にも役割がある。母体の不調や手放すものを持っていって、流産によって母体の身体が整うという話もあるという。「話さないけど、多くの女性が経験する一つのこと。」

〔はーちゃんとのシンクロニシティ〕

メスのチャボ(鶏の一種)・はーちゃんは春から卵を産むようになった。他のチャボに虐められてたところを引き取ってちょうど一年。番がいたがイタチにやられてしまって、いまは単独で1羽飼なので、遠出のときはケージに入れて一緒に出かけする。その日は友人のお家で一泊の予定。海で遊ぶために訪れていた。はーちゃんも一緒。

翌朝、はーちゃんは卵の産み場を探していた。クワアークワアクワアークワア〜と雄叫びをあげて、友人宅のソファアの隙間や重ねたタオルの間を彷徨っていた。

収まりそうにないので、わたしはまだ寝ていたけどタレケットをつまみ、彼女をわたしの股下に招待した。少し暗いところがいいらしい。

モゾモゾと動く。方向転換しながら段々べちゃんこになっていくのが、ゴワついた布の上かでも良くわかる。ここで落ち着きそう。

しばらくしたら、タオルケットがヒョコツと盛り上がる。親指くらいの大きさのコブが、わたしの股下から外に向かって動いていき、すっきりしたはーちゃんが現れた。

そんな卵を産んだ瞬間がこれ。そんな関係性なのが可笑しい。友達もみんな笑った。

そんな騒動も落ち着きすっかり目も覚めて、「シャワー借りるね!」と、浴びに行ったらわたしの股から血が出ていた。生理が再開した。

そうか、卵も排卵なんだ。

2026年4月23日

光に満ちた、切望に燃える私の身体:笑って
もうひと笑い、私と一緒に。タバコをもうひと吸いして。
君のその優雅な吸い方は、私がおのすべてを
完全に忘れざるを得なくなるほど。私は胸を開く

鳥の翼のように、胸骨の真ん中にある
カササギが魔法を訴える:私を愚かにも
押しとどめてきた檻を、最後の一つまで
引き裂いてみせる。
開いたままの扉を飛び抜けていく。

そしてまだ口にされていない鳥の歌:約束する
あなたのことを思い続けるのをやめる。あなたの傷ついた
心は急かすことなどできない、どんな願いも
ふさわしくも十分でもない！過ぎ去る時間を
先取りすることなど。私は来て

去り、そしてまた戻ってくる、
私の古びた心の痛み、クロウタドリが夕暮れを歌わせよう、
たとえあなたがまた一本のタバコに火をつけるのを見るためだけでも。
たとえあなたが笑うのを目撃するためだけでも。

2026年5月7日

もう夜も更けていた。私の口には、残された言葉はほとんどなかった。簡単な言葉、孤独な言葉だけ。私は孤独の果てでため息をつき、その重みに気づいてくれるのを待っていた。スローモーションのように春が夏へと碎け散る時、見知らぬ二人は互いに何ができるというのか？私にはわからない。聞く資格などなかった。ああ、なんて残念なことだろう。臆病者と狂人を、同じ、鼓動する、憂鬱な心臓の中に詰め込んでしまったなんて。

2026年5月6日

自分の肌を数える。シャワーを浴びた後、ダブルベッドの端に座り、自分の柔らかさと角を包み込み、再び自分の形を覚える。肩のラインは以前より鋭く、背中滑らか。お腹のうなり声が、寝る前に食べるよう私に告げる。私は自分の意志で詩を書き、生まれつきのあざのある腕に自分の歴史を刻む。私が自分を受け入れられなかった時、それらは私を祝福してくれた。ベイビー、私は今、学んでいる。

5月17日

読む 書く 日向に座る 動く 考える 歩く 走る 笑う 味わう 水を見つめる
癒す 癒す 癒す 癒す

この春、私はここ数年で最も多くの詩を書いた。

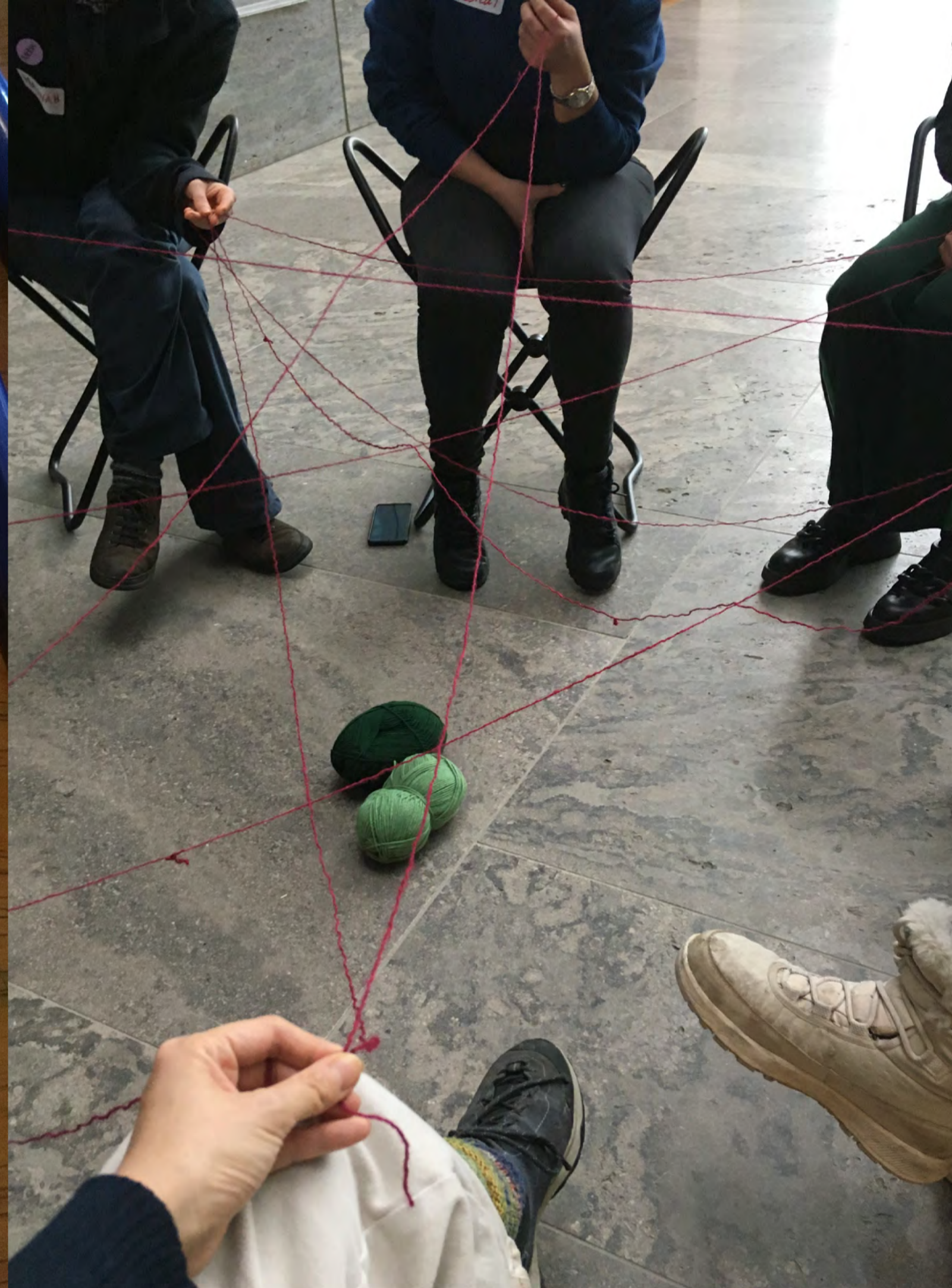
2026年3月18日

なんて愛おしいことだろう。もうすぐ家に着く。ある友人の抱擁から別の友人の抱擁へと移り、私たちは互いを慈しみ、悲しみを大切に抱きしめている。白樺は花を咲かせ、運河はゆっくりと流れる。私は帝国の中心へと旅立ち、同志の手を握る。生きていくこととは、なんと甘美で恐ろしいことなのだろう。私は明晰さと勇気を求めて書き綴る。桜の花、ライラックの香り、何かを感じるために必要な、あらゆる優しさについて思う。このように愛することを学ぶなんて、なんと不可能なことだろう。だが、それ以外を選ぶことは死を意味する。ヘザー、サンザシ、天気が許せば、次に会う時、私はあなたを死ぬほど笑わせて、死そのものを打ち負かす計画を練ろう。私は泣く、泣く:このように愛することとはなんと甘美なことか、愛することそのものがなんと甘美なことか。



2026年1月22日木曜日 21:39

干し柿を食べたら6つタネが入っていて、とても美しく捨てられなかった。父にこの事を話したら自分も子供の頃干し柿のタネの数を競っていたらしい。



2026年1月14日水曜日 13:13

糸玉を投げて、それを拾ってまた次の人に投げる。ワークショップの匿名性が好きだ。

なんでもない写真 を記録にして 残す。13

福田真子

派手で映える写真ではなくて、日常の些細な、でも自分にとっては美しく、かけがえのなさを残しておきたいと始めたこの記録。

- ・スマホで撮った
- ・なんでもない
- ・意図的でない

今回もそんな写真を選んでみた。

日常のなんでもない写真の蓄積を眺めているとそこには、私が見て、食べて、話して、作って、遊んで、受け取って、見つけて、楽しんだ、そんな形跡を辿ることができる。そうして、自分の日常をすばらしく、いとおしく、たいせつなものに思う。

今までは一年に四回のペースで行っていたこの記録。今号からは一年に二回のペースになる。今までは大体三ヶ月ごとの記録だったものが半年分の記録になるため、今回かなりの量となった。それに加えてこの過去を振り返る時間が自分にとってかけがえのないものだという事が改めてよく分かるきっかけにもなった。何を残して何を残さないのか。この問いとは今後も向き合っていくことになるだろう。



2026年1月9日金曜日 16:09
帰ると雪だるまが並んでいた。マフラーが可愛い。今年は雪がよく降った。



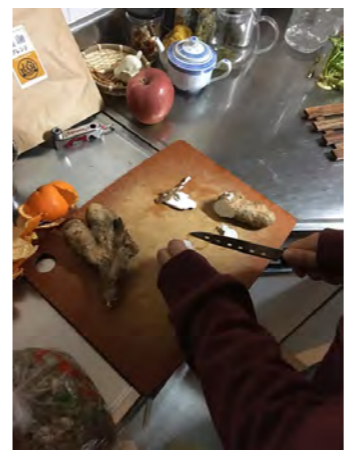
2026年1月3日土曜日 16:19
今年は餅つきもした。みんなでついた餅を丸めている様子がとってもいい。



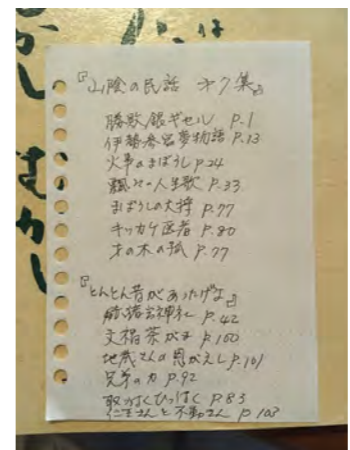
2026年1月1日木曜日 18:27
元日！今年はどんとお刺身！みんながどんと箸で取っていく様子が面白かった。



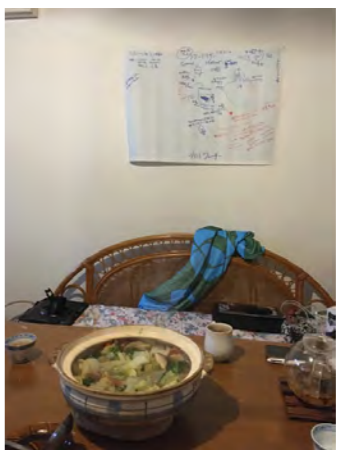
2025年12月26日金曜日 11:53
お気に入りのろうそくとうろうそく立て。



2026年1月21日水曜日 20:48
確かこれは長芋？スライスしてお刺身にして食べるのが本当に美味しかった。



2026年1月21日水曜日 15:51
リサーチの参考になるのではと一覧にしてくれた。ホスピタリティに震える。



2026年1月20日火曜日 13:14
鳥取県南部町でのアーティストインレジデンス開始。こんな機会がいただけて本当にありがたい。

2026年1月20日火曜日 11:34
膝のダーニングは履いたまま出来るのでいい。癒しである。



2026年2月2日月曜日 20:14
「かのうせいshopブツブツ」で物々交換するためのTシャツ製作中。学んだ知恵をどのようにイメージに落とし込み、そして口伝していくのか考えました。



2026年2月1日日曜日 18:03
古着屋さんで買った時についていたタグが可愛いからそのまま付けているそう。その買い付けた人の服にはこのタグが付いているらしい。かわいい。



2026年1月30日金曜日 16:01
郵便局に海外発送の荷物を持って行ったら、局員の方がとんでもなく優しく、「書き方に慣れていらっしゃるから助かります」とお礼まで言われ源氏パイまでもらってしまった。なんという。



2026年1月28日水曜日 19:16
みなさんご存知? 「愛のスコール」愛の雨的な意味だと思ったらデンマーク語で「乾杯」という意味らしい。うまし。



2026年1月22日木曜日 16:50
様々な発酵フレンズを見せていただいた。特に蜂蜜を発酵させるミードは驚きの美味しさだった。



2026年1月22日木曜日 14:25
5本のフォーク。



2026年1月22日木曜日 11:02
はーちゃんはいつも私たちを優しく見守ってくれていた気がする。



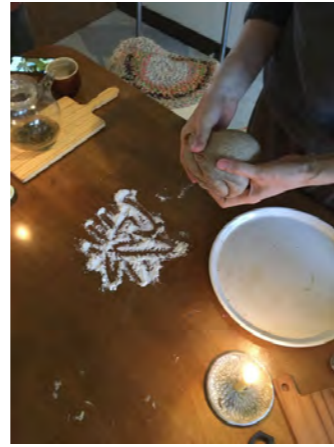
2026年2月9日月曜日 14:07
こちらを見つめてくる犬たち。リンちゃんの方は初めて会った時に「可愛いけど口が本当に臭い」と紹介されて面白かった。



2026年2月7日土曜日 19:49
肩パッドちゃん。可愛い顔をしているが、肩パッドは元々体を大きく見せることで男性中心の社会で対等に渡り歩くための手段として使われてきたという歴史もあるという。



2026年2月7日土曜日 17:52
「つぶ」。これはまかちゃんのつぶ。



2026年2月6日金曜日 10:22
魔法陣が出来ている。



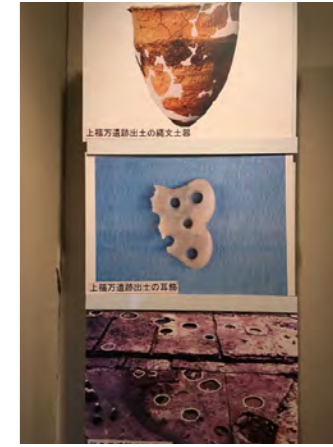
2026年1月25日日曜日 18:47
頭ほどの大きさのカブを持って嬉しそうな私。



2026年1月24日土曜日 14:42
水を汲みに行く。滞在中の飲料水は湧水や村で汲んだ水だった。もう今は私の体には別の水道からの水が流れている。



2026年1月24日土曜日 10:16
鳥取滞在期間中はほぼ毎朝チャイを作っていた。さまざまな茶葉とスパイスを自由に組み合わせることの出来る自由度の高さが面白い。そして日本の豆乳は美味しい。



2026年1月23日金曜日 15:48
この耳飾りがなにかを象徴していて感動したはずなのに思い出せない。

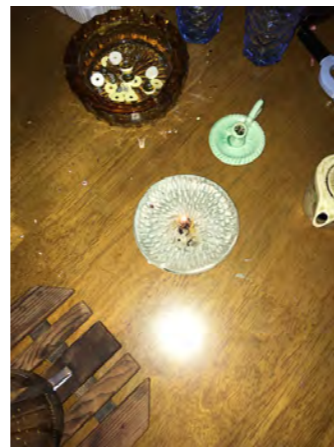
この日この場所に来る事も決まっておらず奇跡だったけれど、実際に判明したことにも驚き。こんな事があるのか。母も10年前その場にいたのでこの一連の流れを説明したら、「もしかしてこういう人?」と言ってなぜかどの人か分かってた。そして案外驚いておらず、それにも驚いた。



2026年2月11日水曜日 19:25
今回初めて会った時お互いに、「会ったことあるかもしれない」と思っていた人が、10年ほど前に本当に東京で会った事がある人だった。



2026年2月11日水曜日 19:05
キラキラの梅干しをもらった。



2026年2月11日水曜日 13:35
お灸セッションもこの滞在から。自分の身体を自分自身でケアするという当たり前のことに常に意識的でありたい。



2026年1月28日水曜日 16:52
とても久しぶりの小学校ですごくワクワクした。全部が小さい。



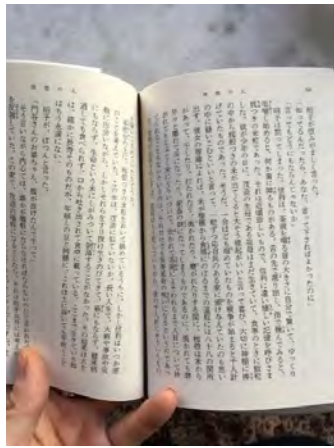
2026年1月28日水曜日 12:34
コミュニティーが停滞せずいいエネルギーを持ってまわっているとコミュニティーガーデンの土壌もいいものに育っていく、という話は目から鱗だけど納得。



2026年1月26日月曜日 19:17
半分になり逆さまに立つあの大きなカブ。



2026年1月26日月曜日 12:05
ご近所の方からお家で不要になった毛糸をいただく。これで大きなブランケットをみんな一緒に編む。



2026年3月22日 日曜日 13:28
米が稲穂から食卓にのぼるまでの道程には八十八の関所があり、それゆえに食べる時に出てきた「粃つき米粒」というのは長寿延命の呪いになるという一節が出てくる。



2026年3月22日 日曜日 12:30
この頃から服を着るのがまた楽しくてたくさんおしゃべりして出かけていた。



2026年3月11日 水曜日 17:09
虹がダブルで見えたよ。虹を見るたびに運のいい人悪い人の例え話を思い出す。虹は誰かの頭の上だけにかかる訳ではなくて、虹がかかっていることに気づけるかどうかと言う話。



2026年3月11日 水曜日 14:18
カラフルな色のもつパワー！



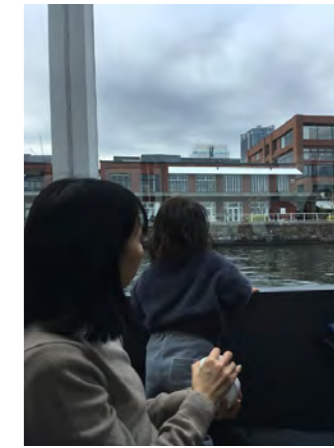
2026年2月19日 木曜日 21:15
鳥取で手に入れた水色の着る。着るかな～と思っていたけれど上着が明るい色をしているだけで冬にこんなに気分が上がるのかとびっくり。おすすめです。



2026年2月16日 月曜日 21:15
家族でプリクラ。両親を雨の中の秋葉原で歩かせまくってようやく撮れた。秋葉原にはそんなにプリクラの機械が無いのか。



2026年2月16日 月曜日 12:03
自分の手元が可愛いすぎる。卒業記念にと自分にリングを贈った。



2026年2月13日 金曜日 10:51
私はこの娘の10人いる叔父叔母の一人で、それをとても嬉しく誇らしく思う。



2026年4月2日 木曜日 12:34
母への靴下を編み終わらラッピング。超〜可愛くできちゃった。



2026年3月29日 日曜日 15:42
墓地にあるジョウロは決して共有ではなくて、ひとつひとつに鍵が付けられていた。



2026年3月22日 日曜日 15:30
とてもいいトイレだった。



2026年3月22日 日曜日 14:29
カフェでジャーナルを書いていた小学生くらいの子に話しかけられた。「あなたもシールを集めてるの？」そうだよと答えたらその子も集めていて家にシール帳があるという。そこでシール交換することになった。その子は私が持っている馬や葉っぱのシールを気に入って、私はその子の持っていた子猫や妖精のシールと交換した。私が子供の頃自分のお気に入りのシールは決して誰かに渡したり出来なかった。「どれでも好きなもの選んでいいよ！」というその子の懐の深さに感動してしまった。



2026年3月1日 日曜日 12:00
とてもいい字。



2026年2月25日 水曜日 19:16
ぴかぴかの野菜たち！ありがとう！



2026年2月24日 火曜日 15:48
鳥取で買ったこのいちごみるくジャムがとーても美味しくてびっくり。これだけでデザート。



2026年2月24日 火曜日 07:40
今年からジャーナリングを再開した。シールをベタベタたくさん貼るのがとても楽しい。自分の記録を生きている間にはたくさん残してもいいだろう。その後のことはその時考えよう。



2026年4月9日 木曜日 22:22
小さな帽子をもらったよ。



2026年4月8日 水曜日 21:01
「ブタはどこ？」と聞くとブタのおもちゃを持って来るようになったサガちゃん。でもこの間はヘビのおもちゃを持ってきたから多分完全には理解していない。



2026年4月8日 水曜日 14:36
ミサンガを作るワークショップ。ミュージアムで過ごすこの時間は大変なだけ癒しでもある不思議な時間。



2026年3月8日 日曜日 18:40
木でおうちごっこをしていた。こういうクリエイティビティを誰もが子どもの頃に持っていたと信じている。



2026年3月8日 日曜日 17:14
世界女性デーということで街ではたくさんのイベントやデモが。今回は大勢の人の参加する場所に行く気は無かったけれど、こういう小さなオルタナティブもあると嬉しいね。



2026年3月8日 日曜日 00:46
ビーガンのグミちゃん。



2026年3月6日 金曜日 21:25
ヤスミナのパフォーマンスはユーモアに溢れ、その場の空気を噛み締めたくなくなるような、元気ももらえる。

6

JUNE
JUN 1 2018

MONDAY
A LINDY BRYANT

TUESDAY
A SARAH BENTON

WEDNESDAY
A MICHELLE NEWMAN

THURSDAY
A JUDY CLARKE

FRIDAY
A KAREN PEARCE

SATURDAY
A DAVID LARSEN

SUNDAY
A TERRY LARSEN

1 TH



2 ^{FR}



3 ^{SA}



4 ^{SU}



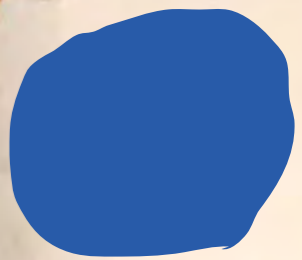
5 ^{MO}



6 ^{TU}



7 ^{WE}



8 TH



9 ^{FR}



10 ^{SA}



11 ^{SU}



12 ^{MO}



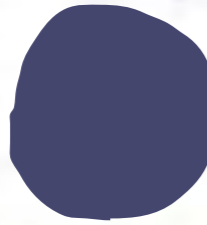
13 ^{TU}



14 ^{WE}



15 TH



16 ^{FR}



17 ^{SA}



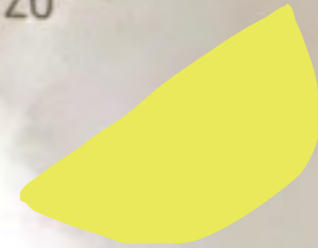
18 ^{SU}



19 ^{MO}



20 ^{TU}



21 ^{WE}



22 TH

23 ^{FR}

24 ^{SA}

25 ^{SU}

26 ^{MO}

27 ^{TU}

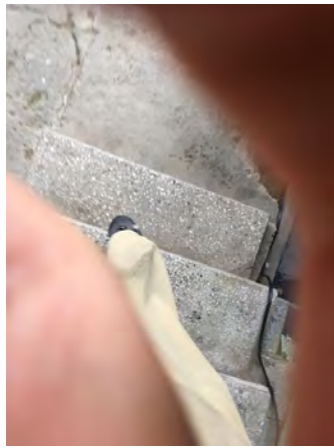
28 ^{WE}

29 TH

30 ^{FR}

まだ会っていない自分に導かれてみる。
時間の逆行と共に。

JULY
JUL 1 2018



2026年5月3日 日曜日 14:52
動き回る日々。



2026年4月30日 木曜日 13:00
このヨーグルトが本当にクリーミーで激うまだった。



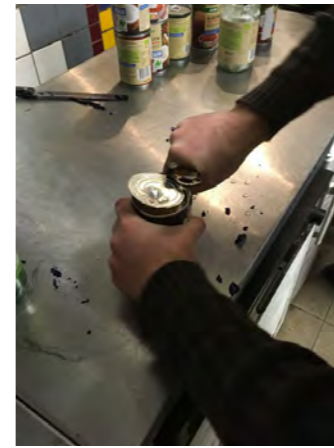
2026年4月27日 月曜日 19:36
食べ終わった皿を魅力的に感じるのはなぜなのか。



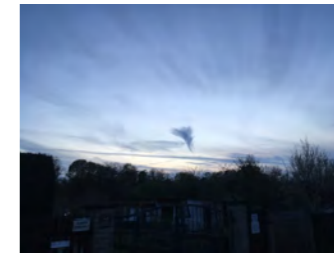
2026年4月26日 日曜日 13:05
はじめてのおつかい成功。



2026年4月17日 金曜日 12:03
こんなコンクリートみたいなところから植物が生えているのを見ると本当に与えられた命をどうにかして使おうという気持ちになる。



2026年4月16日 木曜日 19:53
見たことない古い缶切りを使う。



2026年4月15日 水曜日 20:08
この日はまた空が美しかった。



2026年4月11日 土曜日 09:52
ミニミニレゴに初挑戦。とても楽しかった。ハマる人の気持ち分かる。



2026年5月14日 木曜日 0:33
ご自愛ナイト。こういう剥がれるバックとかしてみたかったんだ。



2026年5月12日 火曜日 04:40
月がいい。風が心地いい。



2026年5月11日 月曜日 21:27
ドイツにはこの時期「白アスパラ用のハム」や「白アスパラ用のジャガイモ」など白アスパラにかこつけた商品が多くあるようで、本当に合うのか検証。結果合いました。



2026年5月10日 日曜日 01:00
フェイスペイントしてもらった。顔がキラキラで嬉しい。



2026年4月23日 木曜日 00:21
壁にはお守りが貼られている。



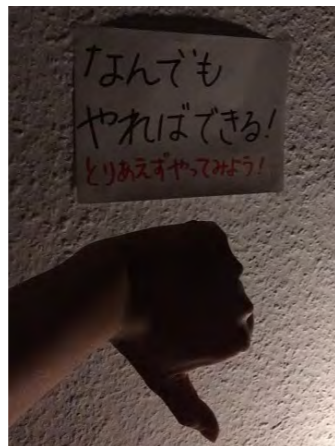
2026年4月17日 金曜日 20:43
Do you want to turn back time? とても可愛い展示だった。こんなアーティストが同じ街に住んでいることが嬉しかった。



2026年4月17日 金曜日 19:48
展示で食べたセリョートカ・パト・シューバイ。ロシアなどでは祝祭日に食べられるそう。これがもうとんでもなく美味しかった。ニンジン、ジャガイモ、卵、ピーツなどが層になっている。



2026年5月23日 土曜日 11:03
最近はこのスカーフを編んでいるのだけれど一向に終わる気配が無い。



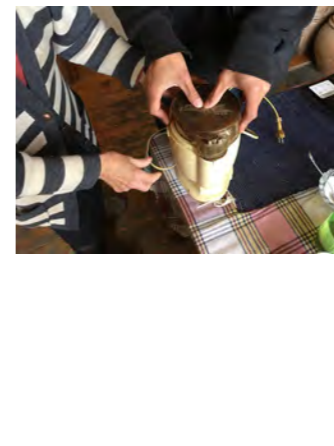
2026年5月22日 金曜日 00:47
自分の書いた文言に絶望した日。こんな気分の時だってあるさ。



2026年5月19日 火曜日 19:39
キッシュを焼いて、それを持って行くとなると必然的に歩かなければいけないという当たり前のことを学んだ日。



2026年4月24日 金曜日 14:48
一度割れた物を針金でとても綺麗に継いでいる。すごい。



2026年4月24日 金曜日 14:38
胡桃とニンニクをこの古(いにしえ)のフードプロセッサで砕く。



2026年4月23日 木曜日 20:10
食器棚に収納されるパン、いちご、野菜。万能である。



2026年4月23日 木曜日 14:20
ジョージアのご飯は本当に美味しくくて大好き。元気になる味がするんだ。



2026年5月23日土曜日 16:14
念願のたんぼぼの抹茶ミルククレープ。美味しすぎた。



2026年5月24日日曜日 14:48
Tegernsee に。周りが山々で囲まれてよかった。とってもケーションフィーリング。



2026年5月26日火曜日 18:47
これはまた近場の別の湖。



2026年5月27日水曜日 15:04
またまた別の湖。自分はいつだってどこへでも行ける、と言うことをやっぱり常に覚えておくこと。そして自然の中にいると本当に回復する。出来たらこのパソコンとかも一定期間どこかに封印したい。

五月三十一日を境になにかが起きてそれまで自分がどんな日常を過ごしていたのかパツパツ思い出せない。
思い出そうとすれば、何をしたのかその行動や予定は思い出せる。
しかし感覚が思い出せない。何を考えていたのか。
自分のルーティーンは？
朝起きて何をしていった？いつからそのルーティーンは無くなったのか？
何を目標にしていたのか。何を悩んでいたのか。
何に苦しんでいたのか。何を幸せと感じていたのか。
なにか、カットがかかった感覚。
「切れた」のではなくて、シフトした、場面が切り替わった感覚。
物語は続いている。語り部が変わったのだろうか。
さまざまなお話を「覚えていない」という感覚がある一方で、脳というのはすごい。
私はこの期間で多くのシンクログと偶然と、再会を経験した。

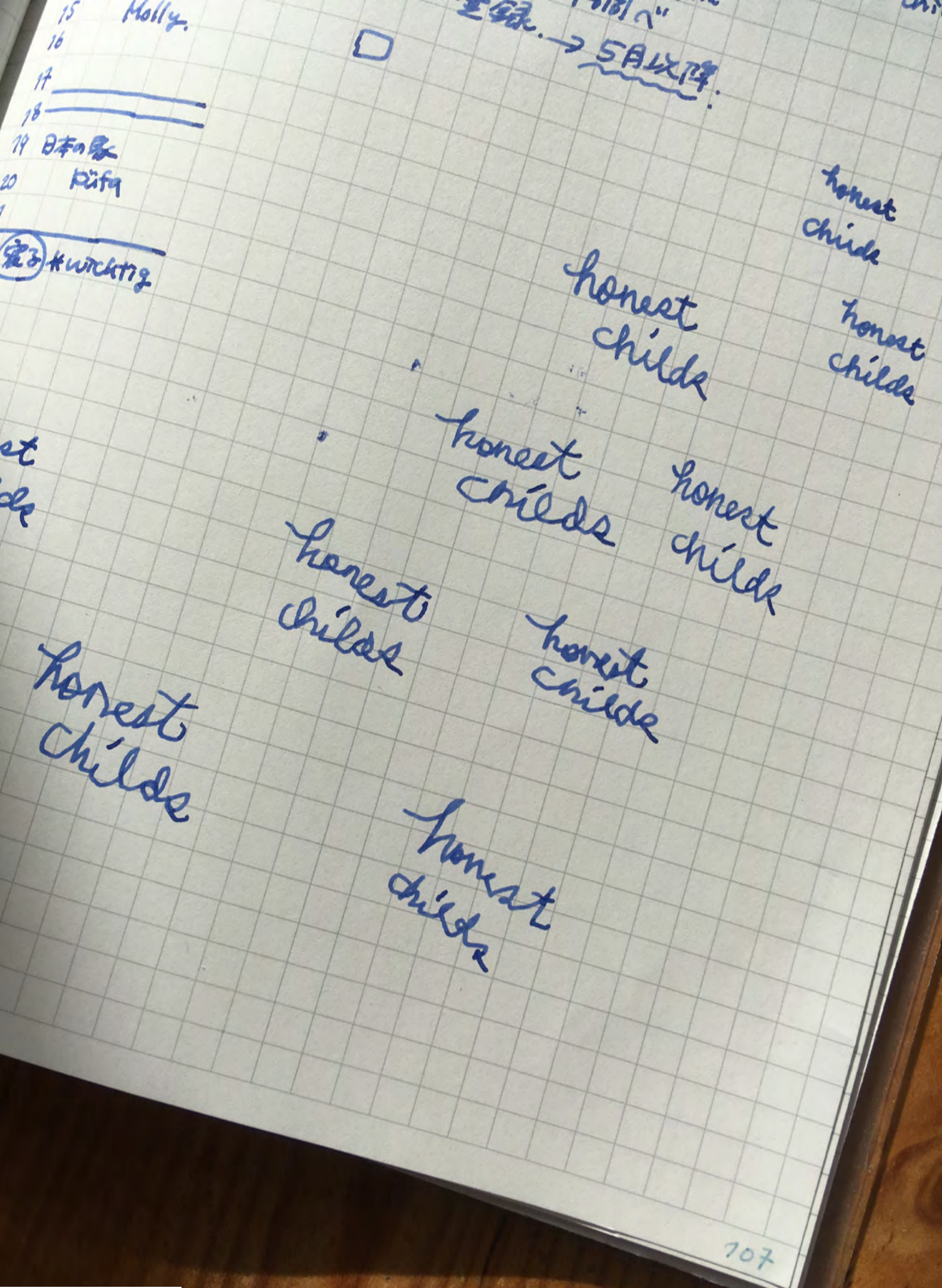
鳥取では、初めて会うはずの人と「会った事がある」という不思議な感覚を共有した。似た人が友達に居るのか、勘違いなのかと思っていたが実際にはその人は「十年前に一度、言葉を変えてはいないが同じ場所にいた人」だった。頭を意識ではその人は私の記憶の中にはいなかったのだが、脳のどこかのなにかはそれを経験していたのだ。覚えていた訳ではない。脳の中のなにかに「触れた」という感覚に近いのかもしれない。
アスラの入ったラーメン、明日の死を意識して生きること、能動性、射手座満月の再会、会う人と会わなかった人と会うはずだった人とこれから会いに行く人と出会う人。さまざまなお話が渦になって、頭の中を高速で回転している。
出会うはずだった子どもがいるだろう、住むはずだった家もある。行くはずだった場所もある。
交わらずだった約束があり、祝祭があり、用いもある。

しかし、色んな未来はパラレルで存在している。どの道を選んでもその未来は消えず、どこかで存在しているという考え方もあるらしい。つまり結果が一つに決まってしまうのではなく、私たちは選んだ方しか見られない、経験できないということ。宇宙は絶え間なく分岐している。

先祖に想いを馳せる。遠いが確かに存在している人々。
こんなにも不確かな世界でこんなにも確定的なこと。
私たちの身体には母親の細胞がほんの少し混ざり、母親の身体にも私たちの細胞がほんの少し混ざっている。
互いの細胞は何十年にもわたってそれぞれの体内に残っていることが分かっているらしい。
その細胞は免疫機能に作用し、母親の身体を守るために働くこともある。

自分は時々何者なのだろうかと思える。
考えても生きるしかなくて、落ち込みそうになるのですぐにやめる。
でもまたそれが首をもたげてやってくるのである。
しかし繋がれた命を全うしなければと。
それが今の私ができることなのではないか。考えるな。動け。毎日を全力で生きてみる。「人事を尽くして天命を待つ」

今は自分の身体に向き合う期間にしよう。呼吸に集中する。深く息を吐いて吸う。吐いて吸う。はーすー。
脳に酸素を送る。血液を送る。
それが今一番できることであり、今一番することだ。
はーすー。はーすー。はーすー。



2026年4月17日金曜日 17:14

なにかを始めたくて、名前を決めてみた。それはまさにオルターエゴと言う感じでしっくりきた。



2026年6月1日 月曜日 16:58

ルームメイトが急に「いちご狩りに行こう!」と言うので行って来た。こうやって非日常を簡単に生成出来る人に憧れる。



2026年5月10日 日曜日 19:28

ユニバースは私たちのことを見ている、本当に見たいものを見せてくれている。楽しい事も嫌な事も怖い事も悲しい事も。最近はこれに本当に感動している。



vulnerable people stayed in Nanbu Town, Tottori Prefecture.
 Vulnerable people stayed in Nanbu Town, Tottori Prefecture.
 脆弱な人たちが鳥取県南部町に滞在しました。

During our stay, we worked with a total of 15 children
 滞在中に南部町立全見小学校・西伯小の
 放課後アートクラブに所属する15名の子どもたちと一緒に
 from the after-school art clubs at Nanbu Town's Aimi Elementary School and Saihaku Elementary School.
 それぞれの「めにもえないともだち」を描きました。
 to draw our respective "invisible friends."
 めにもえないともだちを一冊にまとめ
 We are currently compiling these drawings into a book so we can share it to all of you.
 みなさんの元へお届けできるよう準備中です。

生活音の記録



Recordings of everyday sounds



めにもえないともだち

Invisible Friends



オンラインストアから6月末発売!
 A limited quantity will be available for purchase
 on our online store starting at the end of June.





★号の持ち寄り：お日さまに聞いてみたいこと + お花の写真。

Maison de BONGOの庭は、
すごく気持ちの良い日に
外に出て、
木の下で原っぱで、
みんなで集まって
おしゃべりする場所です。

vulnerable peopleがお互いにコミュニケーションをとる連載コーナー

ハロー、太陽！

かつてプトレマイオスが、あなたが地球の周りを回っていると提唱していたことを考えていました。それから約1500年後、コペルニクスが地球があなたの周りを回っていると提唱しました。なんて大きな転換でしょう？

その転換によって、夜や昼、影、季節、そしてあなたの癒やしの陽光が説明されるようになったのです。

しかし、人間は速度や生産、搾取のペースを加速させ、あなたを癒しの要素としてではなく、単なる道具として扱うようになってしまいました。

「日=生産の道具」、すべてが高速化され、資本が唯一の価値とされる世界。私たちは、あなたに挨拶することを忘れてしまったのです。

私もまた、この止まることのない生産のルーチンに囚われています。でも、このハムスターの回し車のような状況の中でも、私のアトリエには、私を地に足をつけてくれる美しいタンジェリンの木と一緒にいます。

見守りながら育つ様子を――まず葉の間から、やがて「アザール (Azhar)」と呼ばれる白い花を咲かせる。スペイン語で、もし「h」の文字を取り除けば、「アザール (azar)」になる。それは「幸運」や「偶然」を意味する。

この花は強い香りがある。夕方に漂うその香りが好きだ。街中を駆け回り、あなたのもとを通り過ぎて忙しい一日を過ごした後、私の脇の下もこんな香りを放てたらと願う。少し苦く、少し甘い香りを。

この小さな白い香りの強い花は、木に「幸運」や「偶然」として現れる。その存在は、まず緑色に、次に黄色に、そしてやがてオレンジ色へと実るタンジェリンの可能性を示している。

親愛なる太陽。あなたは私にタンジェリンを思い出させる――最近、そう思うようになった。

ミシェル・サエツ・プローラ



乾燥椎茸 (今回は軸) 4gほど
乾燥ミント茶葉 5g
ミックスペーパーホール ひとつまみ
熱めのたつぷりのお湯をティーポットに入れる
ホットで楽しむには 5分ほど
アイスで楽しむには 冷めるまで待つのが吉
お好みの茶器でお楽しみください



さようなら、また逢いましょうのお茶

今回から、ティーのレシピが生まれた背景にも少し。

「こんなお茶を作りたい！」とかいうイメージはあまりなく、「最近はこの気分だから、アレとアレを組み合わせたら面白そう！」でこのティーレシピ連載は続いている。もちろん、季節や気候、その時の体の調子なんかも影響しているだろう。

しかし今回は、「この食材を使ってみよう」からやって来たティーレシピ。売り物にはならないんだよ切り落とした椎茸の軸。それらを乾燥させて大地に戻すイメージで風が通り抜けるミントの草原とピリッとする岩。

また逢おうね、また逢いましたね、のそんなシーンが浮かぶ。



Maison de BONGO

木村佳奈



生まれ続けるエネルギーをいつもありがとう！と、
まず感謝を伝えてみます。聞きたいことは
特に思い浮かばないけれど、歌やメロディー
を送りたいな～

体のあるわたしは、あなたの
情報に満たされていて
細胞のすみずみにまで記録されているようです。

なぜあなたが空で斜めになると、影が長くなるのですか。

あなたはほんとうにまるいのですか。
地球もほんとうにまるいのですか。

あなたのまわりには、何が見えるのでしょうか。

前川紗由里



MAISON de BONGO の庭

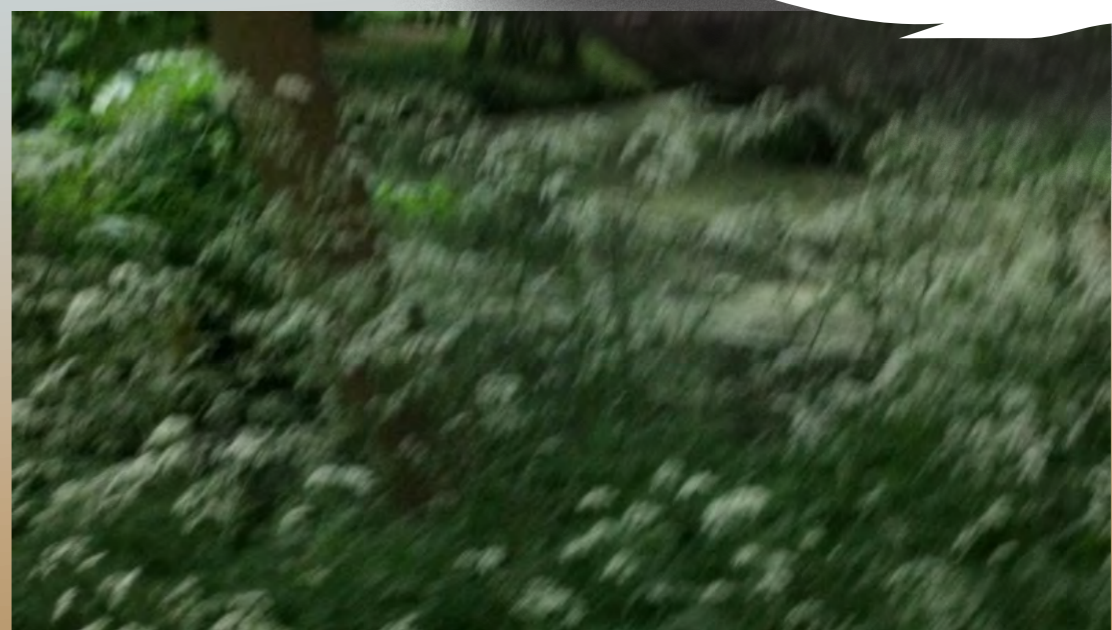
今号の持ち寄り：お日さまに聞いてみたいこと + お花の写真。

おてんとさま、見えていますか？
私はだいじょうぶですか。どうでしょうか。
上から遠くからきっと見えているのでしょうかね、私たち
のこと。
こーんなに遠いのに日差しが強いと肌が焼けるよう
に痛くなります。
その距離と時間を思うと、とてつもなく途方が
ない気がします。
ずっと昔から今までみてきているのでしょ
うか。
(目はないかもしれませんが一応「見
る」を使いますね)
私たちはだいじょうぶですか。
どうでしょうか。

福田真子



こんなに暗いのに、どうやってそん
なふうに輝き続けているの？ それって、やっぱり痛いこ
となのかな。



サンナ・J・ヒルヴォネン

Maison de BONGO の庭は、
すぐ気持ちの良い日に
外に出て、
木の下で寝っばで、
みんなで集まって
おしゃべりする場所です。

前川
紗由里

湧き
出た流れは川になる

the sun illuminates each form

touched by
another current

look closely

誰かの流れに
ふれて

境界であり
同時に
指標になる

fresh water
keeps
flowing

there is light
within shadow

流れ続けている
真水は
透明な
まま

私という
個体が
潤う

this body
this spirit
is nourished

文明を作って
きた
水のみち

still clear

everything is being warmed

更新し
続けて
いる

流れは
また
流れていく

the flow continues

分けること
ばかりで滞った川

always
renewing
itself

before we notice

summer arrives

プロセスその
もの
知性そのもの

water enters dry soil

つながなおす
潤うための知恵

underground streams
connect

a
spring becomes a river

どうして
マガジンを続ける？

why continue a magazine?

真水
が
乾いた
土に浸透していく

soft grass appears

a boundary
also a guide

固まった土に
点穴を開ける

太陽は
個体を照らす

water begins to flow

地下の水脈が
つながっていく

the paths water makes
have shaped the world

when we are both
individual and whole

水が流れる

よくみると影の中
に光がある

wind moves water
within water

地上にやわらかい
草が生えてくる

a river stalled
by division

what do we do?

風は水の中で
水を動かし

そして全てを
あたためている

wind moves water
beyond water

小さな虫や鳥
動物たち
大きな木

to reconnect

水の外で
水を動かす

いつの間にか
夏が
やってくる

wind for water

個体であると同時に
全体であるとき

water moves again

水
のための風

a route for clear water

人間は何をする？

真水のルート

あなたのそばにいたい。あなたの中にいたい。私はあなた！ あなたの赤を私の身体に流し込んで、あなたの黄色い真実で、私の首を起こして！私のターコイズの海の中で溶け合って！こんなにも献身的でありたいと願う自分が、滑稽に思える！この胎は私のもの。

私は愛であり、破滅であり、退屈でもある。私は塵の残りかすや、あなたのかびりついた痕跡を探し回る。そこには、緑の草原が広がり、村の暮らしを祝福する、穏やかで愛しい世界が開いている。それが私の宝物。大きなものを無視し、小さなものを祝福すること。私はここにいる、早くここから消え去って、そして完全に溶け合いたい。この不快な状態から、外へ溶け出したい。ドクンドクン脈打っている。痙攣が私の足からこぼれ落ちる。



バービーが私の前に立って、「元気？」と言う。「あなた、ダサいけどセクシーね」と私は言う。「どっか行って。あなたは全部壊してしまう」と私は言う。私たちは抱き合い、私は穏やかに彼女の頬にキスをする。やっぱり。私たちはひとつなだ。くすぐったい。私の身体の中心は完全に黄色い。あなたはどこにでもいる。私の中には、ものすごい力と怒りがある。あなたを押し潰したい。あるいは、限界まで近づきたい。あなたの愛が恥ずかしい。私はこの鉄を愛している。私はあなたを突き放し、膝をつき、それから振り返らずに走り去る。(ほんの少しだけ、こっそり振り返りながら。) 私はここにいた！

私は自分の脚に触れる。それはぴくりと痙攣する。肩が横へねじれる。胸が痛む。骨が脈打っている。(そんなことあるのかわからないけれど。) ディシュ、ディシュ、ディシュ。きしむ音。肋骨から何か押し出されてくる。これは人間？違う、骨だ。きれいな骨。それは私の手にぴったり収まる。骨は泳いでいる。私の手の中には小さな湖ができていた。青く、深く、発光している。花の咲く水辺の植物に囲まれている。もう片方の手が鍵を取り、あなたの胸に押し当てる。あなたはいなくなる。門が開き、あなたは去っていくの？

立ち上がる波のうねりの中で



見えるのは青い空だけ。どこまでも青い空、そして黄色い線。巨大な紫色のかたちがこちらへ近づき、マントのように私を包み込む。目を閉じても見えるのは紫だけ。淡い青が私の下腹部いっぱい広がっていく。膨張する。痛い。出ていけ、と私は叫ぶ。あなたはここに属していない。私は完全にピンクでありたい。ただ柔らかく、甘やかでいたい。広がる紫が私を押し潰す。それは私の中に波を起こす。私は震える。四肢が持ち上がり、吐き気が込み上げ、ぬめぬめした紙吹雪が吐き出される。生ぬるい。退屈。もう見飽きた。どこか安っぽくもある。この塵、この濃密さ、この嫌悪は、私をどこへ連れていくの？身体が柔らかく、ぼんやりしてくる。私は沈み込みながら大声で叫ぶ。「そう、そう、そう--来て！」

脆弱な人々たち

vulnerable people #19

Date of Issue 21.6.2026

Publisher vulnerable people
脆弱な人々たち

おぼろげな宇宙

cover title

cover design

夜邊瑠璃



mermaid

seafoam

